

▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽

広島県緑化センターメールマガジン VOL. 288 H27. 3. 22

△▽△▽▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲

クスノキ科の黄色い花をはじめ、春の花が次々と咲き始めました。野鳥のさえずりもよく聞こえてきます。サクラでは河津桜や寒桜、カンヒザクラが咲き始め、寒咲大島や修善寺寒桜の開花も間もなくです。

現在、春のおでかけキャンペーンを開催中です。隣の広島市森林公園と緑化センターの両園でスタンプを集めるとプレゼントがもらえます。期間は5月24日（日）までです。ご来園時にはぜひ参加してみてくださいはいかがでしょうか。

★ 開花情報

アブラチャン（油漑青）クスノキ科クロモジ属（写真1）

山地の中腹や山裾の落葉樹林の湿った場所に多く自生する落葉低木で、高さ5mになります。種子や樹脂は油を多く含み、生木でもよく燃えることから名付けられました。「漑青」はコールタールやピッチなど炭化水素化合物の総称です。花の時期はダンコウバイとよく似ていますが、アブラチャンの花序には柄があり、ダンコウバイにはありません。また葉の形は、アブラチャンが卵状楕円形なのに対して、ダンコウバイは幅が広く、葉の先端に切れ込みのあるものがあります。

アブラチャンは管理事務所横三叉路、林縁他で見られ、ダンコウバイはきのこの森で咲いています。

アオモジ（青文字）クスノキ科ハマビワ属（写真2左）

クロモジやアブラチャンとは異なるハマビワ属に属する落葉小高木で、九州西部や南部、山口県などの暖地の日当たりの良い場所に自生します。冬の間には蕾をつけ、3~4月に展葉と同時に少し早くに白っぽい黄色の花を咲かせます。果実や材にはレモンのような芳香と辛みがあり、ショウガノキやコショウノキとも呼ばれ、材から高級和菓子の楊枝を作ります。

場所：管理事務所横園路沿い

シキミ（櫛）シキミ科シキミ属（写真2右）

仏事に使われる常緑小高木で、モミ林に多く自生し、寺社や墓地によく植えられています。木全体が有毒で、特に果実は誤食すると死に至るほどの猛毒です。名前も「悪しき実」からシキミに訛ったといわれています。稀に中華料理に使う香辛料の八角と間違えて使用する事故がありますが、八角は類似種トウシキミの果実です。

場所：レストハウス谷沿い他山林内

トサミズキ（土佐水木）マンサク科トサミズキ属（写真3左）

江戸時代から観賞用に栽培され、現在でも庭木としてよく植えられている落葉低木で、高知県の石灰岩地や蛇紋岩地に自生します。3~4月に展葉に先立ち黄色い花をたくさん咲かせます。前年枝の葉腋から垂れ下がった花序に、約1cmの花が7~10個つきます。雄しべは花弁とほぼ同じ長さで、暗赤色を帯び、黄色い花弁との色合いが目を引きます。類似種のヒュウガミズキも咲き始めました。トサミズキよりも葉や花が小ぶりで見分けがつかず。

場所：車庫前、多目的広場入口他

ミツマタ（三又・三極）ジンチョウゲ科ミツマタ属（写真3右）

ヒマラヤ地方原産の落葉低木で、室町時代に渡来しました。和紙や紙幣の原料で、本州以南で栽培され、野生化したものもたくさんあります。展葉前に筒状の黄色い花をたくさん咲かせます。花弁は無く、開いているのは萼です。枝先が3つに分かれるため、ミツマタと呼ばれています。花が赤い園芸品種をアカバナミツマタといいます。

場所：管理事務所前

その他の開花情報等

開花	アテツマンサク、マンサク（数輪）、ウメ（紅、白）、ヤブツバキ、サザンカ、カンツバキ、オオバヤシャブシ、キャラボク、ダンコウバイ、ミツマタ、キブシ、ネコヤナギ、コリヤナギ、ヒサカキ、カンヒザクラ、河津桜、寒桜、十月桜、冬桜 他
----	--



写真1 アブラチャン（管理事務所横三叉路） H27.3.20



写真2左 アオモジ (管理事務所横園路沿い) H27.3.21



写真2右 シキミ (車庫前) H27.3.20



写真3左 トサミズキ (県木の森向かい) H27.3.20



写真3右 ミツマタ (管理事務所前) H27.3.21